

市長が時代と価値観の変化について、政策秘書課職員に話をした内容です。

## モノよりコト

最近、昔の記録を整理して、私たちの生活が時代とともにどのように変わっていったのか調べてみました。今は電話といえばスマートフォンをイメージする方が多いかと思いますが、私が最初に使った電話は固定電話でもなく、有線放送電話でした。私の記録では、昭和 36 年に農協が長久手で有線放送電話を始めました。電話がかかってくると近所一帯の電話機に呼出しがかかり、会話の内容が近所に筒抜けという、今では考えられないようなおおらかな仕組みですが、とても便利なので皆あまり気にしていませんでした。とてもおおらかな時代でした。その後、昭和 38 年には長久手で初めて道路が舗装されました。今では当たり前のようにアスファルトで覆われている道路ですが、それまでは雨が降ると水たまりのできるデコボコ道ばかりでした。村営水道ができたのは昭和 39 年で、この年は、東京オリンピックが開催された年です。新幹線ができたり高速道路ができたりといろいろな工事がされて、いろいろなモノが作られ、日本全体が変わっていきました。大量に生産し、大量に消費する時代となり、モノがあふれる時代になりました。

今は、自動車・テレビ・クーラーなど、モノについては一通り充足し、消費の中心がモノよりコト、体験を大事にする時代になりつつあると感じています。人々の関心が所有欲を満たすことから、経験や体験といった、心の充足を求めることになってきているようです。人口がどんどん増え続けた時代は、モノもどんどん増え続けた時代でしたが、人口が減少する時代へと変わったことで、これ以上モノを作る必要がなくなってきました。これもモノよりコトになってきた理由のひとつでしょう。

このように、社会が変わりつつあるため、行政も合わせて変わっていく必要があると思います。社会の価値観が変わったら、行政も価値観を変えて、時代にあったやり方へと変えていくのです。モノ重視よりコト重視へ変わるというのは、買物よりもおしゃべりを楽しむような事で、行政だと、ハードウェア重視よりソフトウェア重視への変化とも言えるかと思います。予算や制度で、効率的にルールどおりに解決するやり方ばかりではなく、これからは一層、人に寄り添うきめ細かな対応や、時には法律や制度を超えた、おおらか

さが求められることとなるでしょう。

価値観を変えるということは、なかなか難しいものです。価値観というものは、人生経験などの長い時間が育むものですから、それをを変えるのにも、普通は長い時間がかかるものです。だから、行政の価値観を変えと言っても、すぐに簡単に変わるものではありません。ところが、先に物事のやり方を変えてみると、後から価値観が変わるということもあります。これまでのやり方を、少しだけ変えてみる。これくらいなら簡単なことです。これは仕事に限りません。まずは自分の生活で、いつも同じ事をしている物事のやり方を少しだけ変えてみてはどうでしょう。これまでと違った視点で物事を見ることができるようになると思います。

～市長の話を聞いて～

私は出勤するのにふだんは車を使っていますが、たまに自転車で市役所まで来ると、いつもの窓ガラス越しに見慣れた風景が大きく変わって見えます。ちょっとした上り坂がとても大変だったり、ふと漂う香りでアベリアの花に気づいたり、強い日差しの中、歩道に影を落とす街路樹がとても有り難く感じたりします。これが歩きや車いすだと、また大きく違った風景となるでしょう。市長が話されるように、新しい価値観を理解するには、新しい視点で物事を見ることが必要なのだと思います。